

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492800097
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン
事業所名	グループホームいきいきの家今泉
訪問調査日	平成 22 年 3 月 29 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 26 日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 4 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	1492800097
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン
事業所名	グループホームいきいきの家今泉
所在地	神奈川県秦野市今泉254-2 (電 話)0463-85-1377

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月29日	評価確定日	4月26日

【情報提供票より】(年平成22年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 16 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 16.5 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	93,500 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(315,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 300 円 夕食 500 円 または1日当たり 1,400 円	昼食 500 円 おやつ 100 円	

(4)利用者の概要(1 月 21 日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	おおしろクリニック、厚誠会歯科秦野
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇当事業所は小田急秦野駅から徒歩約10分の、丹沢や富士山が見える閑静な住宅街に位置している。
 ◇理念の、「いきいきとした笑顔あふれるおだやかな安らぎの中で、自分らしさを大切にしながら、和のある、そんな暮らしをまごごろでつくります」は、平成20年10月の開所時に職員が相談して作成したものであり、事業所内には職員手書きの理念を掲示している。
 ◇玄関は日中施錠しておらず、利用者の居室には鍵がない。自立度の高い利用者は職員に声をかけて自由に散歩や買い物に出かけており、職員はさりげなく見送っている。近隣の住人は事業所の状況を周知しており、利用者が外出し道に迷っても連れてきてくれる関係ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・外部評価を受けるのは今回が初めてである。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・自己評価票は、管理者とケアマネージャーが協力して作成した。自己評価と外部評価の結果は、職員にフィードバックして、外部評価の意義を職員と共有する予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・運営推進会議は、利用者家族、秦野市役所高齢福祉課職員、自治会長、地域高齢者福祉センターケアマネージャー、地主、事業所の管理者とケアマネージャーが参加して、3か月毎に開催している。会議では、家族から職員の名前と顔が分からないとの意見があり、職員の顔写真に本人のコメントを添えた職員紹介作成中であり、でき次第玄関への掲示を予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族の来訪時、管理者が声をかけて意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努め、来訪が困難な家族には、電話で随時状況を報告し意見や要望を聴取している。 ・意見要望を聞く機会として、運営推進会議の案内を全家族に郵送し参加を呼び掛けている。家族からのクレームは貴重な意見と受け止め、その場で改善できるもの、職員間で話し合って改善方法を検討するものに分けて対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・自治会に入会しており、回覧板で地域の情報を入手している。自治会主催のどんど焼きに参加したり、福祉センターフェスティバルでは、利用者と共に作成した作品を出展したりしている。 ・事業所のクリスマス会や敬老会には、民生委員と自治会長に直接利用者と職員が案内状を持参して出席を呼び掛けている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念は平成20年10月、当事業所の立ち上げ時に職員が相談して作成した。 ・法人の基本理念と事業所の理念を1階と2階の玄関に掲示し、リビングに職員の手書きの事業所理念を掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎月、1、2階のリーダー、計画作成担当者、管理者が参加するリーダー会議を、隔月に、全体ミーティングを開催して、理念の実践状況を確認し、意識化を図っている。 ・理念の共有化に向けて、福祉センターのフェスティバルに職員の書いた理念の作品を載せて出品した。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に入会しており、地域の情報は回覧板で入手している。自治会主催のどんど焼きや、福祉センターのフェスティバルには、利用者と共同で作成した作品を出展している。 ・事業所のクリスマス会や敬老会には、ボランティアや民生委員、自治会長に案内状を出して参加を依頼し、事業所と地域との交流が図れるよう取り組みを予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価を受けるのは今回が初めてで、管理者と計画作成担当者が自己評価票を作成した。調査終了後は職員へのフィードバックを予定している。	○	・自己評価を行なうことによる職員の気づきが、外部評価を実施する目的の一つです。次回からは全職員が参加して自己評価に取り組まれることが望まれます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・メンバーに家族、市役所高齢福祉課職員、自治会長、地域高齢者福祉センターケアマネージャー、地域代表、管理者・計画作成担当者が参加して、3か月毎に開催している。 ・家族からの要望で、認知症の理解を深めるための勉強会の時間も設けている。また、職員の顔が分からないとの意見があり、顔写真と本人のコメントを添えたものを作成しており、でき次第玄関に掲示を予定している。		

いきいきの家今泉

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市や医師会主催の研修には積極的に参加している。 ・高齢福祉課の職員から研修情報を得たり、アセスメントやケアプランの作り方などの指導、助言を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりは、家族の来訪時に管理者や職員が伝えている。来訪が困難な家族には随時電話で報告している。 ・毎月居室担当者が、家族に利用者の日常の様子や健康状態、行事への参加状況などの近況と、領収書を添付した預かり金出納帳のコピーを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来訪時には管理者から声かけをして、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。 ・運営推進会議を、意見や要望を聴き運営に反映する機会として位置づけ、全家族に案内を送り会議への参加を呼び掛けている。 ・家族からの意見は、その場で改善したり、職員間で話し合って改善方法を検討し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・1階と2階のケアを共有化するため、フロア間での職員の異動はあるが、利用者が安心できるよう、馴染みの職員が、機会のあるごとに異動前のフロアに顔出しして混乱を防ぐ配慮をしている。 ・管理者の異動は法人本部が決定しており、利用者、家族には事後報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部の研修案内を、事務室内に掲示して職員の参加を促している。研修会の参加費と交通費は事業所の負担である。 ・職員の入社時、管理者がオリエンテーションで利用者の接遇や介護要領などを指導している。	○	・外部研修を含む年間の研修計画を作成して、職員のサービスの質の向上に資することが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県と市の両方のグループホーム協会に入会している。 ・研修には、計画作成担当者が参加して、同業者との情報交換を行っており、その内容は、報告書にまとめて回覧し、職員間で共有してサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居については、職員が本人や家族と面談してアセスメントの後、事業所見学をしてもらい、納得が得られてから契約している。 ・入居後は、利用者が不安を感じないよう、職員が利用者の情報を共有して対応し、体操や散歩への参加状況から馴染みの程度を判断している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者には人生の先輩として敬いの気持ちを持って接している。本人の得意とすることができるよう支援し、正月の郷土料理を作ってもらったこともある。 ・職員が疲れていた、落ち込んでいる様子を察して、利用者が励ましてくれる場合がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・管理者は、職員が利用者の思いや意向をくみとる観察力を養うようOJTを通して指導している。 ・特に男性の利用者には、女性職員の接し方が押し付けと取られないように注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ケアプランは、計画作成担当者が要請し居室担当職員がケアカンファレンスを行って作成している。ケアプラン作成後は、家族に郵送し、家族の来訪時に、又電話にて説明して了解を得ている。	○	・ケアプランの作成に当たっては、アセスメントをベースに事前に利用者・家族と話し合い意見や要望を入れ、関係者がケアカンファレンスを開催して作成されることが期待されます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ケアプランは、原則3か月毎に見直している。利用者に状況の変化があればその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者の病院への付き添いは、無償で対応している。 ・自主サービスとして、小田原への散策や外食、近所の小学校の校庭を借りた花見などの行事を行っている。遠出の場合は下見を行い、トイレの状況などを確認している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医への受診は、本人と家族の希望を優先しているが、入居後12名の利用者が、事業所の協力医への受診を希望し変更した。 ・毎週水曜日に協力医の内科医、金曜日には歯科医の往診がある。内科医とは、24時間対応の体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居時、利用者と家族に、医療行為を伴うターミナルケアは行わない旨を伝えて、理解を得ている。 ・重度化した場合は、医師と家族、事業所間で相談して、その都度方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・管理者が、利用者の自尊心やプライバシーに配慮したケアと言葉遣い、声の大きさなどに気をつけるように職員に指導している。また、職員が居室に入るときは、必ず一声掛けることを徹底している。 ・職員の採用時に、個人情報の取り扱いと守秘義務について研修を行なっている。個人情報のファイルは施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自立の方は一人で外出したり、意思表示が困難な方には状況を見て職員が過ごし方の意向を確認するなど、利用者一人ひとりのペースにあわせて支援している。 ・消灯時間の決まりはあるが、利用者のペースを優先している。昼夜逆転の場合は、夜中でも職員が話しかけ、落ち着いて過ごせるよう対応している。		

いきいきの家今泉

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理は職員が行い、利用者に味見や茶碗拭き、下膳をお願いしている。正月には利用者に郷土料理を作ってもらった。 ・職員は利用者と和やかに話しながら一緒に食事をし、刻み食、とろみ、お粥などにも対応し、全介助の方にはペースを見ながら介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・2日に1回、午後の入浴を基本としているが、希望で午前中や毎日の入浴、同性介助にも応じている。 ・1階の浴室には、入浴用リフトの設置があり、職員は利用にあたって研修を受け利用者の安全に配慮している。 ・入浴を好まない方には、体調や声かけ、タイミングを見計らってさりげなく誘っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の楽しみごとは、家族や利用者から生活歴を聞いたり、日常を観察することで意向を汲み取っている。 ・新聞を読んだり、カラオケや、職員が提案した計算ドリルなどの脳トレ、ぬり絵を楽しんでいる。 ・洗濯物やおしぼりたたみ、職員と一緒に近所で頂いた季節の花を活けるなどの役割をお願いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は車いすの方も一緒に近隣を散歩し、草木や畑での季節の移り変わりを楽しんでいる。 ・利用者は地域の方も多く、自立の方は一人で散歩や近くのコンビニへ買い物に行っている。 ・近隣小学校の校庭を拝借してお花見をしたり、小田原城へ散策に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中玄関には鍵をかけておらず、出入りは自由である。職員は利用者の出かける気配に注意して声かけはするが、自立度の高い方は日中一人での外出を支援している。 ・行事の折、外部からの不特定訪問者がいないよう安全対策には十分配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練、初期消火、消防署直結の通報訓練を年2回実施している。スプリンクラーがあり外階段が設置されている。 ・11月には、地震出火を想定して利用者も参加し避難訓練を実施した。避難経路と避難方法を写真入りで廊下に掲示している。	○	災害に備え、飲料水と食料の他、防寒用の毛布などの備蓄を検討されることが望まれます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分チェック表で、バイタルサイン、食事と水分の摂取量、排泄回数を確認している。 ・お茶・麦茶、冷たいもの、熱いものなど、利用者の好みで選べるように用意し、食事制限にも配慮している。 ・栄養バランス、カロリー計算は業者が行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関には鉢植えが置かれ、テーブルには散歩で積んだ季節の草花や、行事の写真などが飾り付けられている。 ・居間の窓からは、季節の農作物や樹木を見ることができる。必要時外気換気し、利用者と職員と一緒に掃除して、清潔に保たれており気になる臭いはない。 ・居間続きの台所があり、調理の様子や匂いが窺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にはベッド、カーテン、タンス、こたつ、仏壇など、使い慣れたものや、写真などが持ち込まれている。 ・配置替えは、利用者と家族が行っているが、要請があれば職員も手伝って、居心地の良い空間になるよう支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いきいきの家今泉
（ユニット名）	-
所在地 （県・市町村名）	神奈川県秦野市今泉254-2
記入者名 （管理者）	鎌田良治 ・ 計画作成 西谷 雅子
記入日	平成 22年2月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「個人の意志や尊厳を重んじいきいきと健やかに安心して生活が送れ、その人らしく生きる姿を支援すると共にケア技術の向上を目指します」と掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をホーム内の職員の目の届くところに数ヶ所張り周知させている。理念の実践に向け日々気付いた事があればその都度改善していくよう話し合う場を設けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議等で現状の取り組みを説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設近くを散歩するさい挨拶を交わしたり、近所の方が犬の散歩に立ち寄ってくることもある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催のどんど焼きや保健福祉センターフェスティバルに参加し、地域交流を行っている。	○ 今後はボランティアや民生委員・保育園等と交流をはかり、クリスマス会や敬老会等に参加して頂きたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月1回のリーダーミーティングや2カ月に1回の全体ミーティング等で話し合いを行っている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての外部評価調査ですので真摯にうけとめ今後の施設運営にいかしたい。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヵ月に1度実施。組長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、家族等で構成	○	既に行っているがご家族らと共に認知症の理解を深めていこうと勉強する時間を設けているので、今後も続けていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援専門員協会施設部会や市、医師会の研修会に参加し質の向上はもとより情報交換を行っている。	○	会議等への参加だけでなく他の施設見学や勉強会開催の要望を伝えたり、業務を遂行する上での相談にのって頂いている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利援護や成年後見制度について一部の職員のみでなく研修等で学ぶ機会を得ていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく言葉の虐待等が利用者に不安を与えると説明している。	○	介護支援専門員や介護福祉士等の資格保持者は虐待について勉強しているが、職員全体で勉強する機会がない為早急に会議で話し合ったり、又虐待に関する詳しいマニュアル作りをし勉強会の実施や研修に参加していきたい。日々職員間で声掛けしていける環境作りも大切だと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書及び重要事項説明書を必ず声を出して読み説明を行って契約書に署名して頂いています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレームは今後の施設運営に大切なことで真摯に受け止め職員には申し送り時の周知しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者からその月（健康状態や行事等）の状況を記載し送付している。	○	ご家族等の来訪時には積極的にスタッフが会話をする機会を作っている。又計画作成者も来訪される機会の少ないご家族には連絡した際様々なお話を伺うよう心掛けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞き運営に反映している。また、家族が来所したさいご意見を聞くよう心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやリーダー会議で職員の意見を吸い上げ反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常日勤帯は3人配置しているが通院介助等で職員がいなくなる時間帯には他のユニットの職員を事前に確保・補充調整をしている。又病欠等急な状況には休みの職員が対応出来る範囲で出勤してもらったり、管理者が現場に入る事もある。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は開設してから行っていないが利用者を把握及び職員のコミュニケーションをとるには必要と思う。	○	管理者の異動・職員の変更についてはご家族からも要望としてその都度報告して欲しいと言われている。出来る限り要望にそっていききたい。又職員が変更する事によってサービスの低下はありませんと説明をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を奨励しているが介護職員に余裕がない。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会や市主催の研修に出来る限り出席しサービスの向上に努めている。情報交換をネットワークを行っている。	○	今後も積極的に会議や研修の他、他施設の見学等をケアマネジャーだけでなく、ワーカーも一緒に参加出来る機会を設けサービスの向上を目指したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談を行い施設で出来ることを行っている。	○	意見を言いやすい雰囲気作りを目指したい。又定期的に個人面談をしストレスの軽減に繋がれば良いと考えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員には資格取得を促している。(介護福祉士、計画作成者研修、管理者研修)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていること、不安なこと等については職員、ケアマネがコンタクトを取り介護に活かしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時とその後の訪問やケアプラン作成の際には確認の他に相談や要望を伺っている。ご家族等とのコミュニケーションを大切に考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず相談時に本人や家族の話を伺いながら何を求めているのか、何が必要なのかを考えるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	声かけや体操、散歩、歌、新聞、テレビ観戦等に参加を促し馴染めるような雰囲気作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事はご自分で行って頂くよう声掛けをしている。お正月には郷土料理を作ってもらった事もある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人の様子が分かるように近況報告を郵送している。又訪問時等に様子をお話させてもらったり、通院や特変のあった場合は電話連絡をしている。行事では家族も参加出来る物も企画し共に楽しむ機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	近況報告や行事の参加していただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が毎週1回馴染みのある方に会わせる為に外出をしてくれている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士トラブルになる事もあるが必ず職員が間に入り孤立しないよう努めている。又定時の体操やレクリエーション等皆で楽しむ為の物も提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去者が3名いたが継続的な関わり現状もってない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々に対応している。家族の要望も出来るかぎり行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人・家族から伺っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時から総合的に現状の把握に努めている。入居相談時に伺った情報とのズレがあればそれにあったケアに変更している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員から話を聞きアセスメント・ケアプラン作成やケアカンファレンスを開催している。ご本人の言葉はそのままケアプランに記載し、その方の状況や希望に沿った物の作成を心掛けている。	○	入院等ご本人の状況が変わりケアプランに変更があった時に早急に対処出来なかった事があるので、現状に合った物を作成出来るよう努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは定期的に行っているが退院等変化が生じた場合はケアプランの見直し・ケアカンファをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特記事項は毎日申し送りし個別の記録にしている。又解決出来なかった事や新たな問題等は会議で取り上げる。それらはモニタリングやケアプランの見直し時に活かされている。	○	記録の書き方自体まだ試行錯誤な為見直しの必要があると思う。誰が見ても様子が分かる記録作りをしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	クリスマス会には民生委員が参加したり消防訓練には消防署が協力してくれる。	○	現在ボランティアに来て頂こうと市役所や社協に相談に行き話を進めている・
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージを受けている方が数名いる。本人や家族から相談があった時には事業者と連絡を取りサービス開始がスムーズに行く為の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の選択にお任せしている。当施設のかかりつけ医を強制はしない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではなが精神科の相談、受診を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療、看護については、協力医療機関おおしろクリニックに気軽に相談、支援出来る体制である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者(相談員)と情報交換、連携に取り組みは始めた。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアは行っていない。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	行っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉については丁寧、かつ大声で問いかけないよう心掛けている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何か行う時には必ず本人(意思が伝えられない場合は家族)に伺い決めて頂いている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状は好きな時間に買い物に行く等の希望があっても職員側の都合で行けない事も多が出来ただけ希望を考慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容もあるが近所の美容室に行かれる方もいる。希望に沿った対応をしている。	○	普段からご自分でヘアセット出来ない方の支援もしており今後も続けていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況に合わせ食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ふりかけやつくだ煮、お菓子等の嗜好品を一緒に買いに行き召し上がって頂いている方もいる。又おやつに甘い物の希望が多い時は希望に沿って提供している。	○	ご病気で制限のある方もいるので配慮しつつ今後も支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	過度なおむつの使用はせず入居者の状態に合わせた支援をしている。トイレの訴えがあればその都度対応し出来るだけトイレでの排泄が出来るよう心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日おきに入浴しているが本人の希望で毎日入浴している方もいらっしゃる。ただし不潔行為があればそのつど支援する。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お疲れになり、気分がすぐれない時は安心して休めるように支援している。状況によっては医師に連絡し、指示を仰いでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日集団での体操や個人の残存能力に応じて家事等をして頂いている。又外出や行事を楽しみにしている方が多い為、積極的に機会を作っている。	○	同じような取り組みになりがちな為新しい物を取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いを預かっているが、本人が不安を感じる場合は家族の承諾を受け応じている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には必ず散歩や買い物に出掛けるようにしている。又ご家族と共に頻繁に外出される方もいる。	○	外出はしているものの個人の希望した時間に出掛けられないのが現状である。買い物の希望もある為今後は出来るだけ希望に沿って職員が出掛けられるよう、配慮していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小田原城探索や食事会、いも掘り、福祉フェスティバルに出かけ家族にも参加を促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は希望があれば直ぐに対応している。居室に携帯電話がある方もいる。又普段から手紙を書く事が好きな方もおり、年賀状を書かれた時には同じ宛先にならないよう、見守りを行った。	○	特定の方だけでなくリハビリの意味も込めてご家族等に手紙を書いて頂く支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員には言葉づかいや家族等の対応について申し送り時に周知している。また、来所時に近況を伝えるなどしてコミュニケーションをとっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の拘束は行わない。	○	次回の会議時に身体拘束だけでなく虐待についての理解を深めようと準備をしている段階である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外鍵は閉めない。また、居室には鍵がなし。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室は定期に見守り行い安全確認している。ただしマンツーマンではないのでヒヤリハットあり。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には危険物(ハサミ、カミソリ、針、爪切り等)施設で管理、家族にも承諾をうける。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬等は特に気をつけている。	○	ヒヤリハットは書いているが統計を取ったりして検討していないので今後取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は行っていないが医師に直ぐ連絡し指示を仰ぎ処置を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難誘導、初期消火、通報訓練等は年2階実施。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては常に連絡し対応策を説明する現実には回避出来ないこともある。	○	転倒の危険がある入居者には見守りだけでなく具体的な対応策を検討したいのだが難しい。症状等かかりつけのDrや家族に相談するが良い案がまだ見つからない。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特変があった場合は申し送り情報の共有化を図る事と往診のDrに早急に連絡し支持を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から配布される入居者個人用の薬事説明書を理解出来る様に指導、行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日本体操の時間を設けたり、天気の良い日には散歩に行く等活動量を増やす工夫をしている。又食事以外でお茶の時間を設けたり入居者の状態に合わせ水分摂取を試みている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後入居者に歯みがきをして頂いている。自分で出来る方には声掛けと見守り・介助が必要な方にはその方の状態に合わせた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは材料の宅配を頼んでいる為カロリー計算された物が来る。又病気で食事制限がある方にはきちんと量を測り提供している。水分も個人の状態に合わせてたり、朝に牛乳を飲む習慣の方には毎日提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出時(散歩)等で施設に戻ってさい必ずうがい、手あらいを入居者、職員に習慣づけしている。また、来所者(ご家族等)も同様。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は宅配の為日付どうりに使い切っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関にかけずスロープしきで散歩しやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近所で摘んだ花をテーブルに飾ったりご入居者で作った物を壁等に張ったりしている。又雛人形やクリスマスツリー等行事ごとに飾り季節を感じて頂いている。	○	ご入居者の残存能力を生かし日頃からリハビリを兼ねて、布巾や雑巾・作品作り等を行い生活の中で活用していければ、生活に張りが持てると思うので行っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いている。一人でTVを観たり横になる方もいて活用されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物や好きな物があれば持ってきて頂いているし、随時状況に合わせてその都度ご家族と話し合い必要な物があれば用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。また、状況により外気の空気	施設内は温度を22～24度に設定するとともに加湿器による湿度調整を行っている。また、状況に応じて外部との空気の入れかえをおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝の体操や塗り絵、折り紙などで脳の活性化や指先の活性化を行っている。	○	浴室に手すりが少なく動線が確保されていないので手すりを付ける事になっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の状態に合わせて混乱しないよう職員は分かりやすく伝える努力をしている。又トイレや居室等が分からない方には分かるように目印等をつける工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは避難通路になってるので活用したない。	○	今後は敷地内に花壇があるので入居者と園芸が楽しめるように支援していきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者自身がそれぞれの役割を持ち、その方らしく生き生きとした生活を楽しんでもらえるよう、全職員が入居者のニーズを把握し、適切な介護に取り組み支援している。

施設の基本理念、「わ」は「平和の和、友達の和、和風の和」の意味が込められ、家族や入居者、職員に常に見えるようリビングの中央に掲げている。

旬の食材を用いることで、季節感を出し職員も一緒に食事として家庭的な雰囲気を出している。また、入居者にできる限り要望に沿えるよう対応している。糖尿病の食事管理や体重増減管理等を職員が心がけている。